

(様式第1号)

平成22年度第3回放課後こどもプラン運営委員会会議録

日時	平成23年2月28日(月) 13:00~14:30
場所	教育委員会室
出席者	委員長 守上 三奈子 副委員長 松本 朋子 委員 江守 易代 委員 中村 美津子 委員 大塚 圭子 委員 樋口 茂 委員 多田 洋子 委員 中上 二郎 行政関係委員 こども課長 中村 尚代 学校教育課長 北野 章 スポーツ・青少年課長 木高 守 社会教育部長 橋本 達広 事務局 生涯学習課長 細井 良幸・生涯学習課主査 船曳 純子・生涯学習課主事補 北詰 真衣
欠席者	委員 中尾 滋男
会議の公表	公開 非公開 部分公開 <非公開・部分公開とした場合の理由>
傍聴者数	0人

会議次第

議題

- (1)校庭開放事業の管理人学校別意見交換会報告
- (2)平成22年度放課後こどもプラン実績報告及び平成23年度計画について
- (3)平成22年度学校支援地域本部事業実績報告及び平成23年度計画について

提出資料

- (1)校庭開放事業の管理人学校別意見交換会報告
- (2)平成22年度放課後こどもプラン実績報告
- (3)平成23年度計画
- (4)平成22年度学校支援地域本部事業
- (5)平成23年度学校支援地域本部事業(予定)
- (6)ひょうご学校支援地域本部事業概要

内容

(1)校庭開放事業の管理人学校別意見交換会報告

事務局 北詰が内容説明

事務局 細井がPRの回数を1学期に1回程度とすること、10月中旬までの校庭開放時間について報告

<多田委員>

平成4年に校庭開放が始まった時にはコミスクには調整がなかった。市が自治会などに直接頼んで管理人を確保していた。最近では校庭の使用についてのコミスクと校庭管理人との連絡ルートが出来ていないことでトラブルがあった。せっかく見直しの時期に来ているのできっちり整理したらいいと思う。

<中上委員>

安全上の配慮から午後5時に学校のチャイムが鳴るらしいが、防災安全課と連携して午後6時に鳴らすことが出来れば、帰宅を促す意味で良いと思う。

<事務局 細井>

防災安全課と調整をはかり、チャイムという形でなくても何か実施の方法を検討します。

<中上委員>

いったん帰宅を取りやめる件は未定なのか？

<事務局 細井>

低学年の集団下校や高学年のいっせい下校との兼ね合いで、学校や下校時見守りボランティアの方々と調整し、放課後の活動に参加しても参加しなくても安全が確保されることが必要です。

<中上委員>

実際には4時のいっせい下校時刻までに3時30分かつなぎに遊んでいる子もいる。

<多田委員>

子どもを規則で縛らず、怪我をせず遊ばせたい。最後に決定するのは行政であるから、行政内部で調整をして欲しい。

<松本副委員長>

PTAは生涯学習課の事業紹介で校庭開放を取り上げている。保護者も見守りに参加できるよう知る機会を提供している。

<守上委員長>

コミスクやスポーツクラブ21で校庭開放をPRする場はあるか？

<多田委員>

校庭開放のスケジュールをもらえば、コミスク内でも周知しコミスク室に貼り出すなどして配慮するようにする。校庭開放の日に練習日が重なれば、通常の練習ではなく危なくないようにする。

<守上委員長>

自治会の掲示板に貼るのは効果がないのか？

<中上委員>

下校時見守り団体へは学校から下校時間と行事予定表をもらっているが、そこに校庭開放の予定を入れてくれたら、保護者も頻繁に目にするしチラシより効果があるのではないかと思う。

<事務局 細井>

学校と調整し学校の負担にならない方法を検討します。

<大塚委員>

利用状況が学校によって大きく差がある。地域の事情によると思うが、いったん下校については画一的にせず学校ごとに裁量を持たせてもいいのではないか。

幼稚園児や中学生が来ることについて岩園で質問があったがどのようなやり取りになったのか。

<事務局 北詰>

事業自体は小学生の居場所を目的としたものですが、未就学児や中学生がくることについては問題ないとお答えしました。体の大きな子が、小学生の邪魔になるような危険な遊びをしたりすれば、注意していただくよう併せてお願いしています。

<中村委員>

老人会としては事業自体がぴんと来ない。小学校区によっては老人会がいろいろ支援をしていると思うが、小学生対象の事業に老人会が関係あるという意識がない。

<橋本部長>

放課後こどもプラン事業は地域による子育て支援を目的としたもので、子育てを通じた地域交流の意図もあります。そういう意味では老人会も中心的な立場の1つです。

<松本副委員長>

浜風・三条以外の教室型事業はいつから始めるのか？

<事務局 北詰>

年度当初にこだわらず、まずは梅雨の時期など校庭が使いづらい時に単発で実施していくことから始めたいと思います。教室があるかと4月以降の児童の様子を見て判断していきます。

<松本副委員長>

コミスクも同様の教室型事業をしているがそれとの切り分けはどうするのか？

<事務局 船曳>

全く別の事業として行うのではなく、各学校、コミスク、校庭開放管理人の関係性や事情に応じて、コミスクの事業を拡大したり、地域主体で実施する形を目ざしたいと思います。

<守上委員長>

学校と地域が集まって実行委員会形式で行うのがいいと思うが、実行委員会をよびかけるのはどこになるのか？

<事務局 船曳>

生涯学習課の事業なので最初の働きかけは生涯学習課が行います。

(2)平成22年度放課後こどもプラン実績報告及び平成23年度計画について

事務局 北詰が報告

<樋口委員>

これまでの委員会の流れを踏まえると、芦屋市では放課後こどもプラン事業と学校支援地域本部事業とを「地域による学校支援」を目的とした一体のものとして進めてきているように思う。今年度はその準備を進めている報告を受けており、その流れで平成23年度については支援を拡大することによって良いのか？

<事務局 細井>

方向性はそのとおりですが、精道小学校で行われている学校地域連携促進事業が2年目であり、その結果を見て他の小学校への適応方法を考えることとなりますので、具体的な支援に着手するのは平成24年度になります。

<多田委員>

ボランティアがこれほど学校に入ることを求められているのか？学校のニーズに応えるのがボランティアであり、やりたいからといって学校に入るものではない。

<樋口委員>

学校が地域の支援を必要とする時代になっている。教師が教育に専念できるよう地域はその他の用務を手伝うことが求められている。

<多田委員>

この場に学校教育課長が出てくるなら、学校側の要望を取りまとめてくれれば、それに応えるようにする。

<北野学校教育課長>

浜風学びクラブの場合は、学校から強い要望があり、それに地域が協力する形で実現しました。地域性などの条件もそろい学習支援がしやすい環境にありました。教育委員会全体では子どもの体力づくりのため遊ぶ機会を持たせたいと考えています。教育委員会にもボランティアバンク的なものがありますが、学校側のニーズになかなか合わないという事情もあります。

<木高スポーツ・青少年課長>

スポーツ・青少年課ではスポーツ指導者の登録が結構あります。

<樋口委員>

そういった人材を活用すれば学校が目指す教育の助けになると思う。

(3)平成22年度学校支援地域本部事業実績報告及び平成23年度計画について

事務局 船曳が報告

<北野学校教育課長>

学校現場にはすでに有償のボランティアが入っているが、生涯学習課の想定するボランティアが無償であれば有償と無償のボランティアが混在することになる。

<樋口委員>

本来ボランティアとは無償のものであるはずだが、福祉関係などで無償ボランティアが定着しやすいのに対し、教育関係ではなかなか受け入れられない。信頼性が担保できないと教育現場には入れられないという事情もあることと思うし、現在読み聞かせや登下校見守りなどで実績のある人材等からボランティアを広げていくのが良いと思う。よくある失敗はボランティアバンクを作るだけ作り、仕事を任せられず形だけに終わるケース。学校においては学校教育は専門性の確保が必要。学校教育は学校側が責任を持って行い、それ以外のことをボランティアが行うという線引きをはっきりすべき。

<守上委員長>

有償・無償については過渡期でもあり、さらに引き続き検討が必要と思うが、次年度についてはおおむね報告のあったことですすめられるかと思う。

閉会

【資料1】

校庭開放事業の管理人学校別意見交換会報告

実施日 平成23年2月7日～2月23日

実施校 精道小学校・朝日ヶ丘小学校・潮見小学校・打出浜小学校・岩園小学校
(山手小学校・宮川小学校・浜風小学校については実施せず)

1 共通の課題

校庭開放事業のPR

【精道】

- ・ 土曜日は人が来ない。コミスクの文化部に来た子どもが前後に遊んでいるのと、昼から活動している野球部の子が早く来て練習しているなど、つなぎの時間でしか利用されていない。
- ・ 管理人募集の記事を、精道地区にピラを巻くのも良いが、学校を通じて保護者に巻くスタイルが良い。保護者だけではなく、祖父母にも呼びかける。
- ・ 土曜日に怪我をしたとき、怪我をした児童が家の番号を知らなくて困ったことがあった。親の番号を子どもに教えるよう周知したほうが良い。
- ・ 毎年行っている一年生対象の昔遊びや、ふれあい給食会で地域の方に呼びかけてはどうか。

【潮見】

- ・ 保険の適用範囲はどこまでか。
- ・ 管理人の責任の範囲をはっきりさせてほしい。

【岩園】

- ・ 保険に入っているということを学校側は知らなかった。周知すべき。
- ・ なぜ名簿を書くのかと聞かれた場合、子どもにどのように説明すべきか。保険のことは低学年にはわかりにくい。
- ・ 保険のために名簿を書くことは、知らなかった。
- ・ 親は、「事業の対象が誰なのか」についてはっきり意識していないし、学校教育とわかれていることも知らない。保護者への周知が必要。
- ・ お知らせのチラシのみではわかりにくいし、興味がなければ見ない保護者もいる。入学式等の保護者が集まる時に、校庭開放のPRをしてはどうか。

【打出浜】

- ・ 管理人に入ってくる情報が少ない。

校庭開放の時期について

【精道・潮見・朝日ヶ丘・岩園】

- ・ 10月は、日が長いので6時まで校庭開放を行っても良いのでは。

一旦帰宅の廃止

【潮見】

- ・ 児童の半数以上が南あしや浜から登校している。南芦屋浜の子どもは、一度帰ってしまうと学校まで遊びに来ない。陽光公園で遊んでいる子が多い。また、南芦屋浜の薬局やコンビニがあるあたりでもよく遊んでいる。

【朝日ヶ丘】

- ・ 水曜日のアスロンの日は突出して遊んでいる子が多い。一旦帰宅せずに参加できることが一番の原因だと思う。

【岩園】

- ・ 岩園は校区が広いので、10月などの1時間しか開放しない月は、一度帰ってまで子どもが遊びに来ない。

【資料1】

校庭開放終了時に帰らない子どもについて

【潮見】

- ・ 保護者の帰宅時間が遅い家庭が多く、家に人がいないからとの理由で終了時間に帰らない子どもが多い。
- ・ 残っている子どもについて、帰るまで待ち、帰った旨を教頭先生に報告して帰っている。学校から出た子どもは近くの公園に場所を移し遊んでいる。

【潮見・岩園・打出浜】

- ・ 開放時間が終わっても遊んでいる子どもたちの取り扱いについて、どのようにしたら良いか。

2 その他の意見

【精道】

- ・ 土曜日は子どもが忙しいので、土曜日をやめて、土曜日の二人分の予算を平日に回してはどうか。または、土曜日をコミスク活動に使用させてはどうか。
- ・ ペタンクのクラブが間違っただけで開放日に来たことがある。場所を分けて、危なくないようにしてもらい、校庭開放をおこなった。
- ・ 当初から、校庭開放日はコミスク活動をしなないという原則のもとで行ってきたが、共存は可能だと思う。活動の内容によっては、複数の大人が必要だと思う。
- ・ 雨の時は日誌の記帳はどうするのか。
- ・ 雨の日のための居場所づくりを考えたい。
- ・ 図書室で読み聞かせを行うのもよいのでは。
- ・ 室内で折り紙教室や、宇宙少年団のペットボトルロケット作りなどを導入したい。

【潮見小学校】

- ・ 土曜日は親子連れが多い。
- ・ カードゲームをして遊んでいる子どもが多い。
- ・ 中学生は遊びに来て良いのか。体格が違い、危ないから普段は帰すようにしている。
- ・ 蜂が多い。今年は2・3名ほど刺された。キンカン（薬品）を準備して欲しい。

【岩園小学校】

- ・ 名簿を来たときに書いてもらうが、確認の為に帰る時も書いてもらうべきではないか。
- ・ 中学生や幼稚園の子どもが来ても遊んで良いのか。
- ・ 昼の放送などで、校庭開放の有無などを知らせることは出来ないのか。
- ・ 宮が平公園では、いっぱい遊んでいる。なぜ校庭には来ないのか。

【打出浜小学校】

- ・ コミスク活動との共存について。土曜日の校庭開放時に、コミスクのクラブ活動が行われていた。管理人に連絡がなかったので、必ず連絡してほしい。またその際の連絡経路を決めておいてほしい。
- ・ 校庭開放時にコミスク活動を行う際は、その旨を事前に周知しなければいけない。
- ・ 共存する日は、コミスクのコーチから管理人に一声かけていただきたい。
- ・ 管理人、学校、教育委員会、コミスク、4者のコミュニケーションの必要性が大きい。
- ・ 管理人の確保について、防犯グループにコミスクから声を掛ける。

【朝日ヶ丘小学校】

- ・ 水曜日の事業を始めてから、校庭開放がない時期に子どもを帰すのが大変。学校側は、遊ばせたいと思っている。
- ・ 2月は日が長くなってくるので、校庭開放を行っても良いのでは。
- ・ 月曜日は、条件が整えば、水曜日同様一旦下校せずに校庭開放を行える可能性がある。
- ・ 30分でも先生と一緒に遊んでくれると子どもたちは喜ぶのではないか。
- ・ 浜風学びクラブのような室内での学習支援もおこなってほしい。

【資料2】

平成22年度放課後子どもプラン実績報告

1 学校別開放日数(平成23年2月25日現在)

月	精道		宮川		山手		岩園		朝日ヶ丘		潮見		打出浜		浜風		小計		合計
	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	平日	土曜	
	週2	隔週	週5	隔週	週5	隔週	週3	隔週	週3	隔週	週5	毎週	週5	1.2.4週	週5	毎週			
4	5	2	10	2	11	2	7	2	9	2	11	3	10	2	10	2	73	17	90
5	5	2	14	2	12	2	7	2	6	2	12	5	11	3	11	5	78	23	101
6	8	1	16	1	18	2	10	1	10	1	17	3	18	2	18	3	115	14	129
7	3	1	9	1	7	2	5	1	5	1	7	1	6	1	9	1	51	9	60
8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9	7	2	16	1	17	2	0	0	11	2	15	3	12	2	16	3	94	15	109
小計	28	8	65	7	65	11	29	6	41	8	62	15	57	10	64	14	411	79	490
10	5	1	18	1	18	1	11	1	9	1	19	3	18	2	17	3	115	13	128
11	7	2	18	2	13	1	11	0	8	2	17	4	18	2	19	4	111	17	128
12	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	3	0	2	1	3	1	14	15
1	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	4	0	2	0	4	0	18	18
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	12	6	36	6	31	4	22	4	17	6	36	14	36	8	37	14	227	62	289
合計	54		114		111		61		72		127		111		129		779		779

三茶てらこや含む

学びクラブ含む

2 事業経費実績(平成23年2月25日現在)

(単位:円)

項目	合計	運営委員会	コーディネーター経費	子ども教室経費
指導者等謝金及び指導者等交通費	1,479,220	124,180	21,600	1,333,440
活動運営費	0	17,476	0	0
役務費	0	87,610	0	0
補助対象経費(A)	1,479,220	229,266	21,600	1,333,440
補助対象外経費(B)	0			
総事業経費(A)+(B)	1,479,220	229,266	21,600	1,333,440

※補助金申請額は、補助金対象経費(A)の2/3の額を記入する。(1,000円未満は切り捨てる)

補助金申請額	986	千円
--------	-----	----

【資料3】

放課後こどもプラン 平成23年度計画（予定）について

〔運営委員会〕 1学期に1回開催

〔校庭開放事業〕

平成23年度校庭開放日一覧（予定）

学校名	開 放 日								
	月	火	水	木	金	第2・4土	第1土	第3土	第5土
精 道									
宮 川									
山 手									
岩 園									
朝日ヶ丘									
潮 見									
打出浜									
浜 風									

精道の金曜日については、仮定です。

【教室型事業】

浜風学びクラブ 毎週月曜日（休校の日を除く）

三条てらこや 毎月第1月曜日

各小学校 教室型の事業を投入する

平成23年度予算（予定）

（単位：円）

項目	合計	運営委員会経費	コーディネーター 経費	子ども教室経費
指導者等謝金 及び 指導者等交通費	2,272,080	276,240	118,800	1,877,040
活動運営費	49,840	29,840	0	20,000
役務費	164,480	4,480	0	160,000
補助対象経費 (A)	2,486,400	310,560	118,800	2,057,040
補助対象外経費 (B)	0			
総事業経費 (A) + (B)	2,486,400	310,560	118,800	2,057,040

補助金申請額は、補助対象経費（A）の2/3の額を記入する。（1,000円未満は切り捨てる）

補助金申請額	1657	千円
--------	------	----

平成 22 年度学校支援地域本部事業

SMILE ネット関連学校行事支援

日時 10月13日(水)13時~15時

場所 精道小学校校庭他

参加者 35人

読み聞かせボランティア研修・支援者養成講座 1

日時 10月22日(金)10時~11時30分

場所 浜風幼稚園遊戯室

講師 頌栄短期大学人形劇部

参加者 40人程度

読み聞かせボランティア研修・支援者養成講座 2

「もっと絵本の世界に」

日時 1月28日(金)10時~14時30分

場所 市民センター多目的ホール

講師 松井 るり子氏(大妻短大非常勤講師)

参加者 180人程度

学校読み聞かせボランティアネットワーク研修

日時 2月22日(金)10時~11時30分

場所 精道小学校ランチルーム

講師 朝日ヶ丘町 菊谷 早苗氏 他2名

参加者 40人程度

学校支援地域ボランティア養成講座

日時 3月2日(水)15時~16時30分

場所 福祉センター会議室 1

講師 伊丹市立東中学校校長 太田 洋子氏 他1名

参加者 50人程度

その他

通常の見守りボランティア

総合学習補助

理科学習補助

環境整備

への物品及び役務費支援

平成 23 年度学校支援地域本部事業（予定）について

補助事業へ移行（国 3 分の 1，県 3 分の 1，市 3 分の 1）

総事業費に上限あり。超過分はすべて市負担

実行委員会経費 12 万円
 コーディネーター費 76 万 8 千円
 本部事業費 1 万 7 千円 / 1 校

[実行委員会の設置]

23 年度も放課後子どもプラン運営委員会と同一とする
 1 学期に 1 回開催

[ボランティア養成・コーディネーター養成研修]

2 回開催 ボランティア人材発掘・養成及びスキルアップ研修

[コーディネーター配置]

コーディネーターがいる学校は本部としコーディネーター費を支出
 いない学校はコーディネーターのいる学校本部が統括する
 11 校（小学校 8 校及び中学校 3 校） 3 時間×19 日

[各学校本部での事業]

精道小 山登りと自然観察 5 月実施予定
 潮見小 見守り等支援者への連絡方法整理
 各小学校 休み時間等の体力づくり支援
 朝と昼休み読み聞かせ
 英語学習補助
 理科・総合学習補助
 登下校見守り
 環境整備（校庭および図書室・保健室等の飾り）

[ボランティア人材バンク]

本来は本部ごとに人材バンクが必要であるが，社会福祉協議会のボランティアセンターを活用し学校区をまたいでも適切な人材を登用する方法をとる。

生涯学習課からボランティアセンター運営委員を出しており，仲介はコーディネーターまたは生涯学習課が行う。

実行委員会経費	12 万円
---------	-------

実行委員会開催経費

・ 諸謝金	1,000 円 × 8 人 × 3 回	24,000 円
・ 旅費	860 円 × 8 人 × 2 回	13,760 円
・ 役務費	200 円 × 8 人 × 3 回	4,800 円
・ 消耗品	440 円	

ボランティア養成・コーディネーター養成研修開催経費

- ・謝金（講師） 25,000 円×2 人 50,000 円
- ・旅費（講師） 5,000 円×2 人 10,000 円
- ・会場借料費 17,000 円

コーディネーター費	76 万 8 千円
-----------	-----------

- ・報酬 1,200 円×3 時間×19 日×11 校
- ・旅費 15,600 円

本部事業費

- | | | | |
|------|----------|---------------|----------|
| 各校とも | 校外学習付添旅費 | 3,000 円 | |
| | 役務費 | 80 円×40 人×4 回 | 12,800 円 |
| | 消耗品費 | 1,200 円 | |

17,000 円×11 校 187,000 円

ひょうご学校支援地域本部事業の概要

- 教員が子どもと向き合う時間を拡充する
- 地域住民が自らの学習成果を活かす場を広げる
- 地域の教育力を高める

- 実施主体は市町
- 国・県・市町は、各々経費の1/3を負担

県事業

- 県運営協議会の設置
- 地域コーディネーター等研修会の開催
- モデル事業の実施
- 先進事例の紹介、情報提供

市町事業

市町実行委員会の設置

- 構 成: 学校関係者、PTA関係者、社会教育委員、地域団体代表、社会教育団体関係者等
- 内 容: ○ 市町学校支援地域本部の開設 ○ 学校支援ボランティアの養成
- 学校支援ボランティア活動の企画立案、普及啓発 等

学校支援地域本部の開設

学校支援ボランティア活動

○ 地域住民による学校支援活動を行う

学習支援活動

部活動支援

読み聞かせ

学校行事の支援

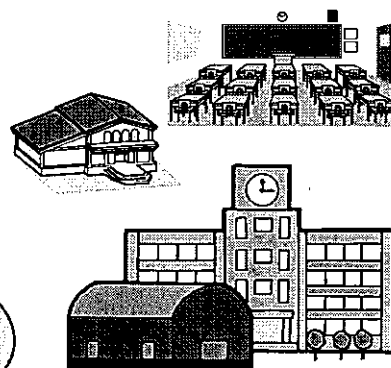
図書室の整備

登下校安全指導

学校環境整備



学 校



支援活動

依頼

地域コーディネーター

- 学校や支援ボランティア、関係団体との連絡調整
- ボランティアバンクの作成と管理

兵庫県における学校支援地域本部事業の取組

1 学校支援地域本部事業の概要

(1) 事業の経緯

- ・ 兵庫県独自の学校支援事業「いきいき学校応援団」の実施 (H14～H19)
- ・ 学校支援地域本部事業の実施 (H20～)

(2) 事業の趣旨

- 教員が子どもと向き合う時間を拡充する
- 地域住民がみずからの学習成果を活かす場を広げる
- 地域の教育力を高める

(3) 事業の概要

- ・ 市町実行委員会
- ・ 地域コーディネーター
- ・ 学校支援ボランティア活動

学習支援活動：実験、実習の補助や地域の自然や文化を学ぶ学習の講師、読み聞かせ など

部活動の指導：運動部、文化部の指導

環境整備：図書室の書架の整理、花壇や樹木の整備 など

登下校時の安全指導

学校行事の運営支援

2 兵庫県学校支援地域本部事業の取組について

(1) 地域コーディネーターについて

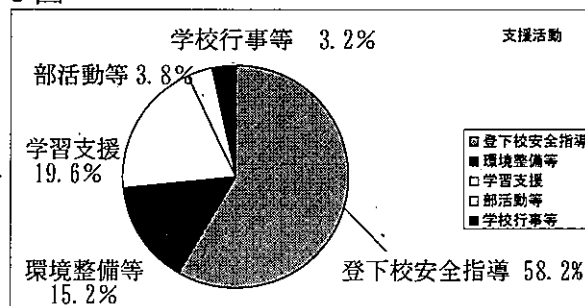
- ・ 地域コーディネーターの役割
- ・ 地域の幅広い人材からの登用

- | |
|----------------------|
| ①学校支援活動の企画・立案や活動の調整役 |
| ②ボランティアの相談役や活動のまとめ役 |
| ③学校の要請を把握し、学校との調整役 |
| ④学校とボランティアの信頼関係の構築 |

(2) 支援ボランティアの人材確保

- ・ 登録ボランティア数 98,355人 (H21)
- ・ 支援回数 91,095回

活動内容別割合



(3) その他

- ・ 学校の要望を逃さずに把握する工夫
- ・ 継続的な支援活動による、ボランティアと教職員の相互理解
- ・ 学校支援ボランティア活動に主体的に取り組める場の醸成